〔伊呂波字類抄安國郡〕近江國○中略甲賀カフカ

〔運歩色葉集加〕甲賀カウカ近江

〔書言字考節用集乾坤一〕甲賀カフカ江州郡名

〔近江國輿地志略四十九甲賀郡〕夫以甲賀郡の名久し、日本紀の天武紀に、鹿深に作る、續日本紀には甲賀に作れり、日本姫世紀、鎭座傳記、及鎭座本緣皆以甲可に作る、油日神社緣記曰、聖德太子誅守屋、勝照四年戊申卯月日、當國有行幸、因勝軍之因緣、先郡號甲賀云々、臣按ずるに、油日社の緣記は僞說のみにて論ずるにたらず、勝照といへる年號日本になし、何れの年號にや、太子を行幸と云へるす、笑べし、甲賀の名、何ぞ此時に始べきや、膺僞もつとも甚し、○中略凡此郡の地勢、略扇子の形に似れり、南廣して北狹し、南は伊賀國界信樂、燒尾、油日山に接し、坤は山城國裏白嶺乃土の山に隣、西は栗太郡の界に連なる、乾は、野洲郡の界櫻山に交り、北は蒲生郡の界に並、艮も亦蒲生郡に接す、東と巽とは伊勢に續く、東は伊勢國界於岐須山鳶野に至り、巽は同國界鈴鹿山に隣、

〔日本書紀二十八天武〕元年六月、會明至莉萩野、暫停駕而進食、到積殖山口、高市皇子自鹿深越以遇之、

〔日本書紀通證三十三天武〕自鹿深越今鹿深、即甲賀郡、此所謂信樂越也、

〔續日本紀十四聖武〕天平十四年二月庚辰、是日始開恭仁京東北道、通近江國甲賀郡、

〔續日本紀十五聖武〕天平十五年九月丁巳、甲賀郡調庸准畿內收之、又免當年田租、

〔延喜式二十二雅樂〕公廨田一十町在近江國

甲賀郡二町　野洲郡五町　愛智郡三町

右件田地子米充年中用度

〔今昔物語十七〕買龜放男依地藏助得活語第二十六

今昔、近江ノ國甲賀ノ郡ニ、一人ノ下人有リケリ、○下略